

伊賀の自然

第1回

「ミツガシワ」 武田恵世



元は水に浸かっており、葉にはギザギザがあります。花茎は30センチくらいで、てっぺんに6〜9センチの花穂を付け、下から順に小さな白や薄紫の花を付けます。花び

伊賀が南限の氷河期の生き残り

ミツガシワ

(伊賀市指定天然記念物)

4月はじめ、木々の葉もまだ芽吹いたばかりで小さい頃、湿原に一面に咲くのがこのミツガシワです。新芽が伸びるとともに、花芽が出てきて、写真のような白い小さな花を穂状につけます。葉の形が柏餅に使うカシワの葉のようで、クローバーを大きくした様な形の3枚組みなのでミツガシワと名付けられました。草丈は20〜40センチで、根

らは5枚に分かれていて、内側に白い毛を密生しています。伊賀市の秘密の湿原1ヶ所のみで生育しています。

美味しそうですが、食べるとたいへん苦く、干して苦味健胃薬とされたり、根を食べると眠気を催すので、睡眠剤や精神安定剤としても使われていたようです。伊賀の物は決して使わないでください。

氷河期の生き残り

氷河期の遺存種で、北海

道や東北では多い種類ですが、近畿地方では少なく、伊賀市がほぼ南限です。市で天然記念物に指定されています。伊賀は盆地で冬はとても寒いですが、夏は相当暑くなります。それでも残って来られたのは、冷たい湧き水と周囲の林で適度な日陰になっていて涼しいこと、その湧き水に鉄分が多く、他の植物が生育しにくいことなどが理由のようです。このようないくつかの偶然が重なり伊賀市に残ってきました。これからも残して行きたいものです。

温暖化か氷河期到来か

二酸化炭素増加による地球温暖化の危機が叫ばれています。伊賀市に氷河期の到来も予想されています。過去の氷河期の周期からすると、そろそろ来ないとおかしいのではないかと考えることでは。また、温暖化に伴って深層海流が変化するなどして、日本ではまず寒冷化するとの予測もあります。本当に氷河期が来たら、伊賀は北海道のような気候になり、大麦やジャガイモが主な作物になりま

す。伊勢湾や大阪湾はほとんど陸地になり、中国や韓国ともつながってしまします。反対に地球温暖化が進んで、縄文海進(約七千年前)と言われた時期くらいの海面が2〜3メートル上昇するようにになると、伊賀は亜熱帯になって、榊原温泉や生駒山の麓あたりまで海になります。伊賀に住んでいる限り、どちらになっても少なくとも地形の大きな変化は心配しなくてもよさそうです。今にもどちらかになるようなことを言う学者もいますが、さて、どうなるのでしょうか？ プラスマイナス0となってくれば良いのですが・・・。取り敢えずここ数年は大丈夫のようです。

伊賀の山並み



南宮山から荒木山

荒木山から竜王山

主に上野市街地から見た伊賀の山並みをご紹介します。行きます。

伊賀の山には当然ながら全部名前がついています。中学生の頃、無名峰を探して名前を付けてやろうとしたのですが、無名の山はありませんでした。しかし、最近では感心が薄れ、山の名前は忘れられようとしています。まずは東に見える山並みから、左から南宮山(伊賀富士)、岡山、荒木山、車塚山、観音寺山、竜王山です。観音寺山には大きな寺院があつたそうです。竜王山には雨乞いの聖地と、緑ヶ丘が陸軍の飛行場であつた頃の高射砲陣地があります。車塚山は大きな古墳です。

武田恵世

歯科医師、歯学博士伊賀市上野桑町で開業。伊賀市環境保全市民会議レツドデータブック作成委員会委員長。環境省希少野生動物種保存推進員。日本鳥学会、日本生態学会会員他。著書に「風力発電の不都合な真実」(アットワークス刊)などがある。